

	83期 2011年(平成23年)4月～2012年(平成24年)3月	84期 2012年(平成24年)4月～2013年(平成25年)3月	85期 2013年(平成25年)4月～2014年(平成26年)3月	86期 2014年(平成26年)4月～2015年(平成27年)3月	87期 2015年(平成27年)4月～2016年(平成28年)3月	88期(予測) 2016年(平成28年)4月～2017年(平成29年)3月
業績	売上高 75,222 営業利益 2,353 経常利益 2,496 当期純利益 1,964 総資産 62,015 純資産 35,264	売上高 73,543 営業利益 1,883 経常利益 2,271 当期純利益 1,351 総資産 68,998 純資産 37,814	売上高 82,855 営業利益 3,732 経常利益 4,016 当期純利益 1,925 総資産 77,208 純資産 40,957	売上高 91,938 営業利益 3,652 経常利益 4,062 当期純利益 1,900 総資産 86,086 純資産 45,223	売上高 90,589 営業利益 5,084 経常利益 4,931 当期純利益 2,482 総資産 84,157 純資産 46,746	売上高 93,000 営業利益 5,500 経常利益 5,500 当期純利益 2,600 総資産 純資産
連結	売上高 75,222 営業利益 2,353 経常利益 2,496 当期純利益 1,964 総資産 62,015 純資産 35,264	売上高 73,543 営業利益 1,883 経常利益 2,271 当期純利益 1,351 総資産 68,998 純資産 37,814	売上高 82,855 営業利益 3,732 経常利益 4,016 当期純利益 1,925 総資産 77,208 純資産 40,957	売上高 91,938 営業利益 3,652 経常利益 4,062 当期純利益 1,900 総資産 86,086 純資産 45,223	売上高 90,589 営業利益 5,084 経常利益 4,931 当期純利益 2,482 総資産 84,157 純資産 46,746	売上高 93,000 営業利益 5,500 経常利益 5,500 当期純利益 2,600 総資産 純資産
個別	売上高 49,166 営業利益 894 経常利益 1,324 当期純利益 1,580 総資産 51,477 純資産 31,826 輸出売上 6,193 比率 12.6%	売上高 45,315 営業利益 691 経常利益 1,469 当期純利益 735 総資産 53,389 純資産 32,227 輸出売上 5,927 比率 13.1%	売上高 42,758 営業利益 1,646 経常利益 2,940 当期純利益 1,955 総資産 55,146 純資産 33,812 輸出売上 4,532 比率 10.6%	売上高 43,105 営業利益 1,116 経常利益 2,321 当期純利益 1,728 総資産 59,937 純資産 35,905 輸出売上 5,122 比率 11.9%	売上高 39,551 営業利益 843 経常利益 1,812 当期純利益 1,669 総資産 56,086 純資産 36,415 輸出売上 3,909 比率 9.9%	売上高 40,000 営業利益 - 経常利益 3,000 当期純利益 2,400 総資産 純資産 輸出売上 2,700 比率 6.8%
事業環境	国内 東日本大震災によりサプライチェーンの寸断。その後の修復と復興需要で緩やかな回復。円高で輸出鈍化。10月下旬にタイ洪水でリケンタイ被災。	復興需要は本格化せず。自動車は秋口からの減産、中国向け輸出減少で生産冷え込み。家電も不振で個人消費は伸び悩み。景気は回復兆しはあるが、足元の需要はまだ弱い。	株価の上昇、行き過ぎた円高の修正が進む。企業マインドは改善、個人消費も緩やかな増加傾向。自動車は堅調に推移。消費税率引き上げ前の駆け込み需要を反映し住宅着工件数増加。	前半は消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動と夏場の天候要因により、個人消費の落ち込みが回復せず厳しい状況。自動車業界は新車販売台数の回復が見られず厳しい状況。建材・建築業界も、住宅着工件数が減少、リフォーム市場も勢いを欠く状況。	自動車業界は、税率変更の影響により、軽自動車の販売落ち込みからの回復が遅れているものの、全体としては復活の兆し。建材業界は消費税率引き上げの影響が、一巡し低迷が続いていた住宅着工件数も下げ止まりの兆し。家電業界では、高付加価値品への買い替えが進み、回復傾向。ただ全体としては、雇用所得の改善が見られるものの、個人消費は消費者マインドに足踏みがみられ、本格的な回復に至らず。	(上期概況) 自動車業界は、全体としては熊本地震の影響もあり販売は低迷し、建材業界は低迷が続いていた住宅着工件数が回復基調となり、家電業界は、堅調に推移。賞金の上昇や雇用の改善が見られるものの個人消費がふるわず、景気回復に一服感。
米国	回復の兆し。	自動車、住宅が回復傾向。	雇用者数が堅調に増加、企業業績の改善継続 自動車、住宅が着実に伸びている。	好調が続く、自動車販売台数は上伸し好調を維持。 建材・建築業界も堅調に推移。	個人消費や民間設備投資が堅調で、景気回復基調。	(上期概況) 個人消費が景気回復基調を下支え。
欧州	金融財政不安で景気停滞。	金融不安により低迷が続く。	緩やかな回復が継続	景気低迷、失業率悪化、金融不安も払拭されず 地政学的リスクもあり、不安定な状況。	欧州経済は緩やかに回復しているものの、失業率や物価の動向、地政学的リスクの影響などに留意すべき状況が続く。	(上期概況) 欧州経済は緩やかに回復しているものの、失業率や物価の動向、地政学的リスクに加え、英国のEU離脱問題による不透明感が高まる。
アジア	タイ洪水にもかかわらず着実な成長。	中国、インド経済は減速気味。 タイやインドネシアは好調維持。	中国はやや低めの成長で安定している。 インドネシアは引き続き好調も、為替不安あり。 タイは政情不安の影響を懸念。	中国の経済成長は鈍化しているものの、 東南アジア地域の経済は緩やかな拡大傾向	中国の景気減速による金融市場の不安定化や原油価格の下落が、 アジア地域および新興資源国の経済成長を減速。	(上期概況) 中国の景気は財政出動による下支えが期待されるものの、 緩やかに減速。
売上	コンパウンド 復興需要で電線伸長、エコ関係も好調。 アジアは家電用途、タイ洪水は日本から支援。 米国は住宅関連は依然低迷。	国内は、電材、建材用途が伸び悩み。 タイ洪水の影響が大きく、他の子会社でカバーするも減収。 米国は自動車、住宅とも回復傾向で増収。	消費税率引き上げ前の需要で、建材、電材が回復。 自動車生産の回復の需要を捉え増加。 タイは洪水被害から回復。 米国は自動車、住宅とも伸長。	国内塩ビは、建材市場は低迷、電材市場、自動車市場は拡販効果もあり上伸し、全体としては前期並み。 エラストマーは自動車伸び悩み横ばい。 海外は自動車、電材を中心に特に米国で増収。	国内塩ビは、建材、電材、自動車市場で、受注の本格回復に至らず、 エラストマーは自動車市場が生産台数の回復が見られるが、 原材料価格の下落に伴う製品価格調整の影響が大きく減収。 海外は自動車、電材を中心に増収。	(上期概況)国内塩ビは、総じて本格的な受注に至らず、 エラストマーは医療、食品分野売上伸長、自動車市場回復により増収。 海外は自動車、電材が好調に推移するも、 原材料価格の下落に伴う製品価格調整の影響が大きく減収。
フィルム	国内建築材市場底打感あり。電材用途は円高とアジア勢の攻勢で苦戦。 輸出はキッチン扉用堅調。が光学用はテレビ需要の落ち込みと製品サイクルの短期化に遅れる。	国内の建築材市場はやや持ち直し。 円高や欧州の金融不安で輸出は低迷。 光学用途は、テレビ市場の急速な縮小により低調。	国内の建築材市場は順調に推移。 広告メディア関連が増加傾向。 電材分野も車輞用及び一部の民生需要が堅調。 輸出は欧州の回復が限定的で低調に推移。 光学用はPDP用フィルムから撤退、新製品も寄せせず。	国内の建築材市場は住宅分野は低迷も、非住宅分野が好調。 電材市場は自動車用途を中心に引き続き好調に推移。 輸出は北米、アジア向けは好調、欧州向けが低迷。 光学市場は新規設備を導入し、量産に向けて有償サンプルを提供し、客先での評価中だが、売上計上には至らず。	国内の建築材市場は回復傾向にはあるものの住宅分野も低迷し、 非住宅分野も本格回復せず。電材市場では、自動車用は堅調、 一般用においては中国経済鈍化により、減収。 輸出は、米国の堅調さに陰り、欧州向けは安価品流入等、 、市況の変化に加え、在庫調整期とも重なり低調。 アジア・オセアニア向けも、経済成長の減速により、低調。 光学市場は、本格的な売上には至らずも、一部流動を開始。	(上期概況) 国内の建築材分野の住宅内装用は、新築住宅着工件数の回復と リフォーム需要に支えられ、売上伸長。 海外は、北米市場における建材、家具用が後半から回復するも、 厳しい状況。欧州向けは安価品流入等、 市況の変化に加え、在庫調整期とも重なり低調。 光学市場は、大型案件の量産化遅れ、本格的な売上寄与に至らず。
食品包材	震災後も製品供給を継続。 が、年度後半は個人消費低迷で苦戦。 中国は原料価格高騰で収益圧迫。	国内は昨年の震災特需から一転需要低迷。 原材料価格上昇の製品価格転嫁に苦戦。 10月の三井化学ファブロ買収で増収。 中国子会社は黒字に転換。	個人消費の回復はみられたが、低価格指向強まる。 原材料高騰分の製品価格への転嫁が進みます。 リケンファブロの業績が加わり増収。 中国子会社は堅調に推移。	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要反落、天候不順による 需要減で厳しい状況。ただし、リケンファブロの12ヶ月分の 売上の取込みもあり、売上は大幅に増加。 中国は品質による差別化が機能せず売上低迷。	実質所得の目減りにより個人消費伸び悩み等により売上は低調。 また、低採算商品の絞り込みも減収要因。 中国は代理店の連携した販路拡大により、増収。	(上期概況) 業務用塩ビラップにおける塩ビ回帰の流れを取り込む事で好調 に推移。 中国は景気の減速感と為替の影響により減収。
地域ごとの 連結売上高 (百万円)	日本 46,195 61.4% アジア 18,984 25.2% 北米 7,122 9.5% 欧州 2,726 3.6% その他 195 0.3% 計 75,222 100.0%	日本 45,908 62.4% アジア 17,181 23.4% 北米 8,022 10.9% 欧州 2,085 2.8% その他 345 0.5% 計 73,543 100.0%	日本 48,193 58.2% アジア 22,281 26.9% 北米 10,111 12.2% 欧州 2,034 2.5% その他 236 0.3% 計 82,855 100.0%	日本 51,222 55.7% アジア 25,600 27.8% 北米 12,487 13.6% 欧州 2,448 2.7% その他 180 0.2% 計 91,939 100.0%	日本 48,265 53.3% アジア 27,457 30.3% 北米 13,521 14.9% 欧州 1,124 1.2% その他 221 0.2% 計 90,589 100.0%	日本 23,151 53.6% アジア 12,636 29.3% 北米 6,904 16.0% 欧州 429 1.0% その他 52 0.1% 計(上期実績) 43,172 100.0%
利益	期初、原材料価格高騰、震災後の在庫調整の中 製品転嫁遅れる。 超円高。	リケンタイランドの減収が大きく影響。 フィルムも不振が続く、2期連続で赤字。	リケンタイランドの回復が大きく寄与。 コンパウンドは原材料高騰分の製品価格への転嫁進む。 原価低減で収益拡大。 為替の影響もプラス。	期初の原材料価格上昇分の製品転嫁が遅れ影響し厳しい状況。 海外は米国を中心に好調が続く、増収増益。 フィルムはDCフィルムの費用負担大。	コンパウンドは海外の自動車、電材を中心に増益。 フィルムは売上低下により、生産性合理化施策効果が限定的、 DCフィルムの開発費用も負担となり減益。 食品包材は販売価格を維持や、 生産合理化・諸経費の削減により増益。	(上期概況) コンパウンドは原材料のコストダウンもあり増益。 フィルムは製品構成変更と生産性改善により赤字縮小。 食品包材は、国内は生産性合理化及び 低採算仕入商品の削減により、 中国現地法人は生産性の向上及びコスト削減により増益。
設備投資 (百万円)	コンパウンド 1,501 フィルム 1,409 食品包材 118 その他 684 計 3,712	コンパウンド 3,574 フィルム 333 食品包材 251 その他 800 計 4,959	コンパウンド 1,655 フィルム 657 食品包材 333 その他 1,064 計 3,708	コンパウンド 1,866 フィルム 1,143 食品包材 366 その他 1,247 計 4,622	コンパウンド 4,411 フィルム 353 食品包材 160 その他 1,187 計 6,111	コンパウンド 5,800 フィルム 200 食品包材 400 その他 600 計 7,000
研究開発費	1,102 百万円	1,099 百万円	1,221 百万円	1,262 百万円	1,301 百万円	1,300 百万円
特記事項	リケンエラストマータイランド設立。 理元(貿易)有限公司設立。 ゼン化から事業買収。 三井化学ファブロ買収。 群馬工場土地取得、テストコター導入。 蒲田土地売却。	3か年中期経営計画最終年。 リケンファブロ株式会社発足。 ソリューション事業部発足。 リケンエラストマータイランド操業開始。 群馬工場にソーラー発電所竣工。	3か年中期経営計画スタート。 PT. リケンインドネシア医療工場稼働。 リケンエラストマーコーポレーション増設に着工 韓国に販売会社リケンテクスインターナショナル コアコーポレーション設立。	3か年中期経営計画2年経過 営業体制を製品別組織から市場別組織へ改組 リケンエラストマーコーポレーション第3ライン稼働開始 ベトナムに製造子会社リケンベトナムCO.,LTD.設立 群馬工場光学フィルム設備稼働開始 エクイティファイナンスの実施(40億円)	3か年中期経営計画3年目 上海理研塑料有限公司増設に着工。 リケンエラストマーコーポレーション増設に着工。 本社移転。 監査等委員会設置会社に移行する方針の決議(H27/11/6) 執行役員制度を導入することを決議(同上)	新3か年中期経営計画1年目 リケンベトナムカンパニーリミテッド新工場稼働。 リケンエラストマーコーポレーション増設工場稼働。 上海理研塑料有限公司増設増設工場稼働。

連結業績の推移

単位:百万円、%、人

	期 自 至	83期	84期	85期	86期	87期
		2011/4/1 2012/3/31	2012/4/1 2013/3/31	2013/4/1 2014/3/31	2014/4/1 2015/3/31	2015/4/1 2016/3/31
収益性	売上高	75,222	73,543	82,855	91,938	90,589
	営業利益	2,353	1,883	3,732	3,652	5,084
	営業利益率	3.13	2.56	4.51	3.97	5.61
	経常利益	2,496	2,271	4,016	4,062	4,931
	経常利益率	3.32	3.09	4.85	4.42	5.44
	当期純利益	1,964	1,351	1,926	1,900	2,482
	当期純利益率	2.61	1.84	2.32	2.07	2.74
	1株当り純利益	32.32	22.38	32.17	31.74	41.41
安全性	純資産額	35,264	37,814	40,957	45,223	46,746
	総資産額	62,015	68,998	77,208	86,086	84,157
	自己資本	32,077	33,833	35,869	39,459	40,114
	1株当り純資産	530.85	565.31	599.28	658.72	669.00
	自己資本比率	51.7	49.0	46.5	45.8	47.7
	流動比率	166.9	167.5	163.6	174.5	174.0
	固定長期適合率	67.0	69.9	70.0	68.4	71.4
	インフレ・カバレッジ・レシオ	52.8	97.0	67.6	47.7	59.7
効率性	総資産経常利益率(ROA)	4.1	3.5	5.5	5.0	5.8
	自己資本純利益率(ROE)	6.2	4.1	5.5	5.0	6.2
キャッシュ・フロー	営業キャッシュフロー	2,407	6,501	5,707	4,375	6,825
	投資キャッシュフロー	△ 2,778	△ 8,882	△ 3,624	△ 4,472	△ 6,607
	財務キャッシュフロー	△ 714	2,925	602	2,088	△ 526
	現金同等物期末残高	7,677	8,572	11,698	13,981	13,444
株価	期末株価	275	253	586	437	388
	PER	8.5	11.3	18.2	13.8	9.4
	PBR	0.52	0.45	0.98	0.66	0.58
配当	1株当り配当金	9.00	9.00	9.00	9.00	10.00
	配当性向(連結)	27.8	40.2	28.0	28.4	24.1
	純資産配当率(連結)	1.73	1.64	1.54	1.43	1.51
その他	設備投資額	3,712	4,959	3,708	4,622	6,111
	減価償却費(のれん除く)	2,541	2,486	2,510	2,979	3,266
	研究開発費	1,102	1,099	1,221	1,262	1,301
	従業員数	1,556	1,644	1,645	1,714	1,765

設備投資額内訳

	83期	84期	85期	86期	87期
コンパウンド	1,501	3,574	1,655	1,866	4,411
フィルム	1,409	333	657	1,143	353
食品包材	118	251	333	366	160
その他	684	800	1,064	1,247	1,187

セグメント別売上高の推移

セグメント別売上高推移

単位:百万円

期 年度	83期 2012.3	84期 2013.3	85期 2014.3	86期 2015.3	87期 2016.3
コンパウンド	51,650	48,270	56,726	62,908	63,889
フィルム	15,085	14,284	13,908	13,919	12,006
食品包材	4,932	7,891	9,218	11,484	11,184
その他	3,554	3,097	3,002	3,627	3,508
連結売上高	75,222	73,543	82,855	91,938	90,589

セグメント別売上比率推移

単位:%

期 年度	83期 2012.3	84期 2013.3	85期 2014.3	86期 2015.3	87期 2016.3
コンパウンド	68.7	65.6	68.5	68.4	70.5
フィルム	20.1	19.4	16.8	15.1	13.3
食品包材	6.6	10.7	11.1	12.5	12.3
その他	4.6	4.3	3.6	4.0	3.9
連結売上高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

